

製品名: ERdj3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10584**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

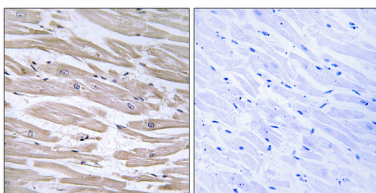
遺伝子名	DNAJB11
別名	DNAJB11; EDJ; ERJ3; HDJ9; PSEC0121; DnaJ homolog subfamily B member 11; APOBEC1-binding protein 2; ABBP-2; DnaJ protein homolog 9; ER-associated DNAJ; ER-associated Hsp40 co-chaperone; ER-associated dnaJ protein 3; ERdj3; ERj3p; HEDJ; Human
遺伝子 ID	51726.0
SwissProt ID	Q9UBS4
免疫原	抗血清はヒト DNAJB11 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 31-80

背景

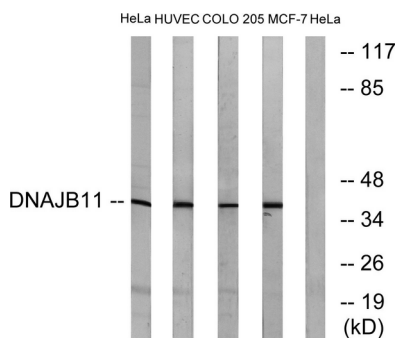
この遺伝子は、小胞体 (ER) 腔の可溶性糖タンパク質をコードしており、ER でのタンパク質の適切なフォールディングとアセンブリに必要な 70 キロダルトンの熱ショックタンパク質シャペロンである結合免疫グロブリンタンパク質のコシャペロンとして機能します。コードされているタンパク質は、特徴的な His-Pro-Asp (HPD) モチーフを持つ約 70 アミノ酸の高度に保存された Jドメインを含み、ATPase 活性を刺激することで結合免疫グロブリンタンパク質の活性を制御している可能性があります。[RefSeq 提供、2014 年 3 月]、注意: PubMed: 11584023 は、細胞質と核の細胞内局在を報告しました。この結果は、おそらくシグナルペプチドによる ER への標的化に影響を与えた、N 末端 GFP タグ付きコンストラクトを使用して得られました。結果として、核タンパク質である APOBEC1 との観察された相互作用の in vivo での関連性は疑わしいです。これは PWP1 との相互作用にも当てはまります。機能: HSPA5 のコシャペロンとして機能します。ERAD の基質である未折り畳みタンパク質と新生未折り畳みペプチド鎖の両方に直接結合しますが、折り畳みが完了する前に HSPA5-未折り畳みタンパク質複合体から解離します。HSPA5 と他のシャペロンを基質にリクルートするのに役立つ可能性があります。HSPA5 ATPase 活性を刺激します。誘導: タプシガルギンやツニカマイシンなどの ER ストレス誘導剤によって。PTM: 高マンノースエンド H 感受性炭水化物を含みます。PTM: Cys-169、Cys-171、Cys-193、および Cys-196 は分子内ジスルフィド結合を形成します。各 Cys の優先パートナーは不明です。PTM: Thr-188 は、ATM または ATR による DNA 損傷時にリン酸化されると報告されています (PubMed:17525332)。しかし、この位置は ER 内腔にあることが示されているため、in vivo での関連性は証明されていません。類似性: 1 つの Jドメインを含みます。細胞内局在: C 末端エピトープタグ構築物において ER 膜に結合しています。サブユニット: CABP1、DNAJB11、HSP90B1、HSPA5、HYOU、PDIA2、PDIA4、PPIB、SDF2L1、UGT1A1、およびごく少量の ERP29 を含む大きなシャペロン多タンパク質複合体の一部ですが、CALR や CANX は含まれないか、非常に低レベルです。ATP 非依存的に変性基質に結合します。Jドメインを介して ATP 依存的に HSPA5 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。

研究分野

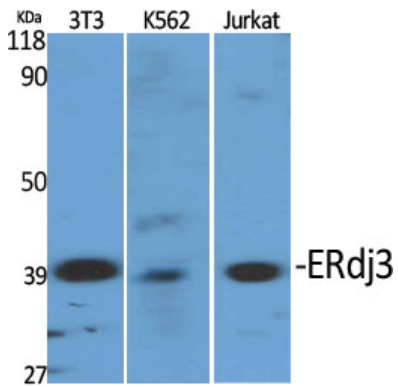
画像データ



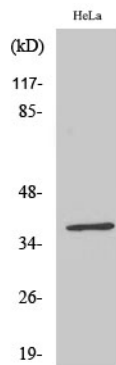
DNAJB11 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



DNAJB11 抗体を用いた HeLa 細胞、HUVEC 細胞、COLO 細胞、MCF-7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ERdj3 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



ERdj3 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット解析